



【祈る人の特権とその祝福】

説教者：鄭南哲牧師

本日の聖書箇所：ルカ11章1節・マタイの福音書6章9－13節

(Rev.Jung nam-chul)

<始まり>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん、朝晩大分温度差が激しい最近、一週間もみんなお元気でしたか。疲れてないでしょうか。先週一週間大分心も体も疲れていた私自身でしたが、祈る時を通して、またみなさんのお祈りのおかげで、また神の慰めを頂き、力付けられた一週間でした。

10月で我らのクリスチャンプレイズチャーチは設立18周年を迎えることになりました！今年は10月最後の礼拝の時18周年設立感謝礼拝をともに捧げたいと願っております。毎年年数を重ねれば、重ねるほど、わたくし自身祈らなければならない、祈りなしで牧会は決して出来ないことを痛感しております。祈りを通して、自分が守られ、また実際に今もお生きておられる神の御助けと力を、そして神の知恵を頂くことが出来ました。私はいつも祈る時にメモするものをおいて、祈りながら与えられる神の知恵を記録し、実践しようとしております。

今年教会設立18周年を迎えながら、神様が我らの教会を通して、喜ばれること、神のご栄光があらわされることは何なのか祈りつつしております。10月2週目、今年も残り後約2か月余り、この季節に祈りの回復と恵みを豊かに体験するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますようにお祈り申し上げます。この季節に、主が我らを祈らせて下さって、今年ここまで歩まれた自身を神の前で振り返って見ながら、励まされ、溢れるばかり感謝して行くみなさんとなりますようにお祈り申し上げます！

<我らが祈るべき理由>

人々は何か思わぬ問題が生じると、その問題に対してそれぞれ自分なりに反応します。ところが全然助けにはならない三つの反応があります。一つは責任を転嫁しようとする事です。自身がこんな風になってしまったのはほかの人、あるいはこうさせたあの環境の所為(せい)だと考え込んでほかの人や自分の周りの環境を非難したり、恨んだり、攻撃する反応です。実はその結果、自身をさらに苦しめるするだけではなく、周りの関係を壊してしまいさらに問題を悪化させてしまう反応であるでしょう。二つ目は問題から見逃そうと忘れようとする事です。あまりにも考えすぎるのも良くないですが、いつも問題があると積極的にその問題を触れながら解決しに取り組もうとするより忘れようとしてしまいます。それで一時的考えないで忘れていた時には、まるで問題が全て解決されたようで平穏感、安心感を感じますが、全然問題が解決されている状態ではないので、その安心感などは長くなりません。忘却(ぼうきやく)に埋めていた問題がまた浮かべられると、すぐ不安、無気力になりやすいです。そして、三つ目はその問題から避けよう、逃げようとする事です。これらは一つも役に立ちません。それにもかかわらず、多くの人々はこのような方法を受け取ります。私たちが生活しながらどうしてもできない問題や苦しみにあった時にこのような問題に対応する一番適切な反応は一つしかありません。問題に直面し、認め、取り組む事だと思います。

神様はクリスチャンたちにその問題を逃げずに、見逃さずに、問題の責任を転嫁せずに、能動的(のうどうてき)に、肯定的に問題に取り組む、克服する一番効果的な方法の一つ授けてくださいました。なんででしょうか。そうです。それはまさに祈る事です。愛するみなさん、わたしを含め私たちは祈りについて、ある程度知っているし、ある程度、祈れると言えるかも知れませんが、改めて共に祈ることについて学んで、実践して行きましょう。

それでは、みなさん、なぜ我々は祈るべきなのか？(神と人格的な関係と交わりのため／神を实际体験するため／我らに与えられている神様からの責任と使命を全うする為)

今日の本本文ルカの福音書11章の箇所ではある日弟子たちがイエス様に“私達にも祈りを教えてください。”と願ったら、イエス様が直接祈ることを通して祈りを体で学びながら、体験出来るように“あなたがたは祈るときこのように祈りなさい。”と教えてくださいましたのがあの有名な“主の祈り”です。

ここで、みなさん、まず、私たちが一つ考えなくてはならないことが、実際イエス様の弟子たちはみんなユダヤ人だったということです。つまり、ユダヤ人たちは伝統的なユダヤ教の中で育てられるわけですので、祈りもどうやってするのかも知っていたし、一

日三回祈る習慣も身につけていた祈り人たちでした。祈りをけっして知らなかった人たちでもなく、むしろ、私たちよりも祈っていた人たちでした。しかし、イエス様が教えて下さった祈りは、ただ形式的な、形だけの祈る姿を望まれず、人格的に心向き合っ
て交われる親密な交わりを望んでおられます！

祈りの大切さは今も生きておられ、我らと共におられる神様と交われる道として、いくら強調しても過言ではない信仰生活の核心的な一つであります。「神は今日もあっても明日は炉(ろ)に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装(よそお)ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。32中あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。(マタイの福音書6章30・32節)」の御言葉のように、別に我々が祈らなくても全てをご存知なる神様なのになぜ我々が祈る必要があるのでしょうか。神は信じる我々と一方的な関係ではなく、互いに交わりを持って人格的な関係を喜ばれるからです。

なので、神はすでにご存知であっても我々が神を信じ、求める事を望み、それに応えて下さる事を喜ばれると聖書は教えて下さっています。その人格的な交わりの体表的な我々の行為が神に祈ることであります。

「神である主はこう言われる。「わたしはイスラエルの家の求めに応じ(聞き入れて)、このことを彼らのためにする。わたしは人を羊の群れのように増やす。(エゼキエル書36:37節)」

「私は主を愛している。主は私の声、私の願いを聞いてくださる。2主が私に耳を傾けてくださるので、私は生きているかぎり主を呼び求める。](詩篇116篇1-2節(Psalms)

「主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに主は近くあられます。19また主を恐れる者の願いをかなえ、彼らの叫びを聞いて救われます。](詩篇145篇18—19節(Psalms)

それ以外にも祈ることは生きておられる神を体験(今も生きておられる父なる神の応え・助け・力・知恵・恵みを頂く)するため、聖書には信じるわれわれに祈る事をよく強調し、教えて下さっています。

マタイの福音書(Matthew)18章19節「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。]

マタイの福音書(Matthew)7章7-8節「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。8だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。]

そして、様々な戦いや試みに陥らず、神様からの人生の役割と使命をまっとうするために祈ることは大切であります。

試みだらけのこの世の中で我々が生き残る道は何でしょうか。それは祈りしかありません。ですから、イエス様は弟子たちに「誘惑に陥らないように目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」(マタイ26:41)と教えて下さいました。

それに関わらず、我々が祈っても応えられない時はなぜでしょうか。もちろん、まだ神の答えの時じゃないからの事もあり、応えられないことを神の祈りの答えもあります。聖書によると、祈っても応えられない祈りについてこう教えて下さっています。

①自分の快楽や欲張りのため祈った時(ヤコブの手紙4:3) ②自分に罪を持ったままで祈る時(イザヤ書1:15-一手にある血)、
③信仰なしで、疑う心を持って祈る時(ヤコブの手紙1:6-7、マルコ11:24) ④人を赦せないまま祈る時(マタイ6:14-15)であるので、このような状態で祈らないように注意しましょう。

<本文>

実は、主が弟子たちに教えて下さったこの主の祈りは、とても破壊的な祈りでした！まず、主の祈りのはじめの内容は何でしたか。「天にします私たちの父よ！」です。ミラーという神学者はこの文章を「祈りへの黄金の扉」(gold gate)だと定義しました。つまり、神様の御前に近づきたがる、神様と交わりを願う人であるならば、この黄金の扉を通過するべきだという意味であります。生きておられる神の御前に出て自分の心を打ち明けて神様と深く交わりたいと願う人ならば、この黄金の扉を開いて神様の御前に入るべきだという意味です。今日この黄金の扉の意味をよくわかってみなさんの前においてある。「天にします我らの父よ。」という黄金の扉をすっかりあけて、ためらわず、神様との交わりの場に入れますように心からお祈り申し上げます。

①“天”におられる神様

まず、天におられるという意味を調べてみましょう。ここのギリシャ語の原語の聖書をみると‘天(εὐ τοῖς οὐρανοῖς)’という単語は単数ではなく、複数で使われています。ですから正確な表現だとすると‘天たち’になります。けれども、日本語、英語のでも‘天たち’という表現は使わないためたぶん‘天にまします’だと翻訳されたと思います。すると‘天たちにおられる’という意味はいったい何でしょうか。天がいくつあるという意味ですか。大体二つに考えられます。

一つ目、神様はどこにでもおられるという意味です。天におられるという意味は天にだけおられ、この地とは関係がない意味ではありません。天におられるという意味は場所と時間を越えどこでもおられる意味です。この世にのみならず、私達の心にも働かれる神様、どこでも、いつでもおられ、出会える神様を意味します。そして、もう一つのこと、創造主である神様として全能の神の意味を含んでいます。あらゆる物をお造りになられ、そしてすべてのもの主権をもっておられる神様であることです。この世の目に見える範囲のみならず、あらゆる面において限りない力と智慧をもっておられる神様であることを意味します。

ですから、愛するみなさん、問題に直面した時にはその問題ばかり見て、考えるのではなく、その問題さえもすべてを解決もって収めておられる神様の方に見つめて置いてください。あせらずに、全能の神様に出る特権が与えられたと信じ、感謝をもって祈っていけば問題の原因を分かって根本的に解決していける事を信じ覚えてください。

②天におられる“父”なる神様

イエス様は祈る時にも、我らの天の父なるお方であられる神様に祈るように明確に教えて下さいました。

「天にいます私たちの父よ。」という祈る内容を通して、我ら祈る対象の神様は、神様と信じる私たちとの関係がどうであるかをよく教えてくださっています。イエス様は私達の祈りを聞いてくださる神様が私達の“父”だと教えてくださいます。ある新約聖書の神学者は旧約聖書のどこにも、そしておびたしいイスラエルの文献(ぶんけん)をさがしてもイエス様以外に神様を‘父’だと呼んだものは誰一人もいなかったと強調します。皆さん、実際イエス様のように神様を“アバ、父よ”と呼びながら祈った人もいないし、イエス様のように弟子たちに祈る時、神様を“父よ”と呼びながら祈るようにと教えた人もだれもいませんでした。

そういうわけですから、当時イエス様の時、神様を‘父よ’と呼ぶというのは破格(はかく)の中の破格でした。当時イスラエルのユダヤ人たちは神様の名前さえ呼ぶことも恐れていました。旧約の聖書を読みながら、神様という文字が出る時には声を出さずに過ぎたり、恐れ多く名前さえも呼べないほどでした。

しかし、イエス様は、創造主なる神様が私達人間と一番望んでいる関係は親と子どもの関係であることだとイエス様を通して分かります。神様は私たちが神様をお父さんとして認識し、呼ばれることを一番喜ばされます。神様は御子イエスキリストを信じた者たちには神の子とされる特権をお与えられていることを約束されています。ヨハネの福音書1章12節では「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」そういうわけでイエス様は神様を‘父’として呼び求めるように私たちに教えてくださっているのです。

だれでも真心をもって神様を信じ、“アバ、父よ”と呼ぶ者は神様の子どもとされます。神様を信じ、イエスキリストを受け入れるとだれでも神様を父と呼べる特権と祝福を与えてくださいます。ローマ人への手紙8:14-15節を一緒に読んで見たいと思います。「神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。15あなたがたは、人を再び恐怖に陥(おとし)れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と呼びます。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！この世で良いお父さん、お母さんに出会うのは人生においてどれほど祝福なんでしょうか。いや、いろいろと足りないとしても親が生きていて一緒にいてくれるだけでもいかに大きな祝福なのか分かりません。しかし、親も弱い一人の人間であるわけですから、子どもたちが親によってかえて傷つけたり、傷ついたりもします。今日は子どもを見捨てたり、子どもを殺したり、親の所有物かのように思い込んで、親のやりたいだけ子どもにさせながら、代理満足を味わったりする間違った親子の関係の場合もあります。ますます良い模範としての親を見つけ出すのがむずかしくなってきたのではないのでしょうか。

この世ではだれも完全な父、完璧な親はいないと思います。しかし、創造主なる神様は今日私達の父であるとおっしゃっていま

す。愛するみなさん、イエスを信じるのがどうして祝福なのかご存知ですか。イエスを信じながら受ける一番大きな祝福であれば、それは神様を自分の父なる神様としての関係で出会える祝福なのです。みなさん、一度深く考えてみてください。

この世を治め、人の生死の人生の全てと歴史、世の全てを支配しておられる神様が私たちをご自分の子どものように扱ってください、わたしたちに“アバ、父よ。”と呼べるように許して下さったというのは、これほどの最高の保障と最高の祝福があるでしょうか。

地の親でさえ、自分の子どもに良いものを与えたり、いつも一緒に行きあげたりします。しかし、肉の親って普通は親として、多くの限界があり、限られている力を持っています。そして、子どもより先にこの世に来て、先にこの世を去りますので、永遠まで子どもと一緒にいてあげられないし、子どもの人生のすべてを満たすわけにはいかないことも事実です。

ところが、天の全能なる私達のお父様は何でもおできになられるお方です！天におられる我らの父なる神様はいつまでも、どんな時にも私たちとともにおられ、私達の子どもたちとも、次の孫の時代や世々に至るまで一緒にいてくださいます。天の父なる神様は我らの人生の中の虚しさにすべてを満たして下さり、子ども達の将来の必要すべてをお与えて下さるお方です。

愛するみなさん、神様は信じ、祈る全ての人々の父となってくださいました。神様が私たちとともにいてくださるのは、私達の実力や、品性や、社会的な名誉やお金のような子供になれる何かの条件的に資格があるからではありません。ただ、わたしたちが神様を信じ頼っている子どもだからです。それが子供とされた、私達の特権なのです。神様は私達の父であるお方です。これより尊い恵みと福音はありません。私達人間が神様を父として認めず、拒む場合はあっても、神様は決して私たちを拒むことはありません。私たちがもし、神様の子どもとされないなら、それは神様がわたしたちを拒んだことではなく、私たちが神様を拒んだためであることをわすれないでください。これはとても大切です。私たちが神様を拒まない限り、神様はどんな場合でも私達の父であって、私たちはどんな場合でも神様の子どもです。

ですから愛するみなさん！神様の子供とされた者たちは、どんな場合にあっては滅びません。神の子どもたちは落胆しても完全にはつぶれません。なぜですか。イエス様が教えてくださったはじめの約束があるからです。‘天にいますわたしたちの父。’がいつも我々と共におられその方がいつもわたしたちの祈りを聞いてくださるお方だからです。

③“私たちの”父なる神様(共同体と宣教の神様)

愛するみなさん、イエス様は“天にいます私の父よ”と教えて下さっていません。そうではなく、“私たちの父”でした。この意味は天におられる神様は自分だけの父ではなく、等しく他人の父でもあることを表わして下さっています。この‘わたしたちの’の単語の中には神の家族としての密なつながっている共同体を意味であり、また、伝道と宣教への使命がふくまれています。この短い祈りの箇所を通してここに集っている私たちは同じお父さんをもっていることが明らかにされます。どなたでも“天におられる私達の父よ”と告白する者がいれば、その人は主の教会の中で、牧場の中で他の人たちに対して、私達の兄弟姉妹であって、信仰の家族であることを覚えなければなりません。国籍も、人種も、学歴も、仕事も、どんな人かは何も関係もなく、主にあって、等しく愛し合う祈り合うべき存在であることを教えられています。天の父なる神様がおられ、治められているところはどこでも、みんな同じ神の民であり、子どもであり、家族であります。

神様を知らない方々は決して神様を父だと呼びながら祈れません。ですから、私たちがこの教会から出て行って神様が我らの父なる神様であられることを教え、伝えなければなりません。“天におられる全能なる神様はあなたの父となれます。”と。どなたでもかまいません。あなたも神様の子どもとされる特権が与えられています。遊女ラハブも、姦淫した女も、殺人者であっても神様の子どもになれます。神様は決して‘私にあなたのような資格がなく、不良な子どもはいらない！’とは言われません。どんな人でも、父なる神様に立ち返り、父なる神を信じて祈る全ての人々を赦し、いつでも愛されるお方であることを覚えましょう。

マタイの福音書18章19-20節ではこう答えられています。「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をついて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20二人か三

人が、わたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

この御言葉によれば、2人でもキリストの御名によって集まっているところに主はともにおられる事と、心一つにして2人でも共に祈る時に必ず天の父なる神様はそれに答えて下さると約束されています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！自分だけの父なる神様ではありません。我らの父なる神様であります！ですから、自分だけの祈りから、成熟された神の人たちは、広げて我らのほかの家族、兄弟姉妹の事をも自分の事と同じく大切に祈りに覚えます。それをとりなし祈りだとも言われています。ですから、牧場で、子供達のために、お互いのために祈る時間は主の祈り通り、天の扉を開くとでも大切な時間であります！その時間を通してみんなが生きておられ、共におられる父なる神様を体験する事が出来るでしょう。

そして、牧場で共に祈り、早天祈り会、水曜祈り会で共に祈る大切さは、自分を超えて他の兄弟姉妹のためにも祈れるので、我らに大切にしよう。

願わくは、敬愛する牧者のみなさん！牧場のために、いつも掃除や食事の準備などでいつも仕えて下さっている愛の犠牲に感謝ですが、是非牧場のために一番大切な準備は、祈りであります。一週間牧場の家族のために、常に祈り、牧場がある日には、是非今日の牧場の集まりの中で、聖霊の神さまが我らの分かち合いの中で、祈りの中で働いて下さるように牧場の家族のために徹底的に祈りの備えをすることあります。

自分のためにも、我らの兄弟、姉妹、牧場の家族のために、我らの父なる神様に祈り、実際答えて下さる父なる神の恵みと力を体験出来る全牧場、教会の全家族のみなさんとなりますように切にお祈り申しあげます。

<結論>

みなさんの中、疲れている方々、様々な問題や悩みに抱えながら、苦しんでいる方々はいますか。父なる神様を呼んで見て下さい。長く祈らなくても大丈夫です。その時はたくさんの言葉を並ばなくても大丈夫です。ただ、ひれ伏して神様を呼んでみて下さい。心から**“私たちの天の父なる神様！！”**と。時には、その言葉だけの祈りでも十分でしょう。

神様を父として呼ぶ瞬間祈りの扉が開かれます。だれでも父なる神を信じ、主の御名を呼び求める者には救われる。と言われました。神様を父として呼ぶすべての者は神様の子供とされ、哀れんで下さり、助けて下されるお方である事を忘れないでください。

今日生きておられ、臨在される我らの父なる神様の御前に集っているみなさんも、もう一度我らが信じている神様が我らの天の父なるお方であられるのを、しっかり受け止めて歩めますように、そしてもう一度神様に‘父なる神様’と呼んで祈って見ましょう。牧場で家族と共に祈りの特権と祝福を味わって下さい。祈る生活はクリスチャンにとって最高の祝福ですから、みなさんの祈る忙しいから祈れない方々いらっしゃるでしょうか。忙しいからこそ、大変だから、忙しいから、手におえない状況だからこそ、父なる神の助けが必要ではありませんか。教会にいる私達みんなは唯一の父なる神様をもってつながっている一つの神の家族であること覚えましょう。ですから、自分の事ばかりにいつもとどまる祈りではなく、主は我らの兄弟姉妹のためにも祈る事を命じて下さっています。

設立18周年を迎えたクリスチャンプレイズチャーチの我らがこの10月に私たちの父なる神様の祈りの答えを通して、さらなる神の恵みと御力をともに味わい体験する全神の家族となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン。